

令和元年度第1回

香美市総合教育会議議事録

日時 令和元年5月27日  
午前10時00分 開会  
場所 香美市役所5階会議室

# 令和元年度第1回香美市総合教育会議

日時 令和元年5月27日

午前10時から

場所 香美市役所本庁

5階委員会室3

## 次 第

1. 開会  
市長あいさつ
2. 報告 香美市教育振興基本計画（後期）について  
新図書館建設の進捗状況について  
公民館活動について
3. 議題  
(1) 物部地区の教育活性化について  
(2) 就学前教育について
4. 閉会

川田総務課長 香美市総合教育会議を開催いたします。私は本日の進行を務めさせていただきます総務課長の川田と申します。どうぞよろしくお願い致します。  
それでは開会にあたりまして市長よりご挨拶を申し上げます。

法光院市長 皆さん、おはようございます。  
令和元年度 香美市総合教育会議を開催するにあたりまして、ご挨拶を申し上げます。委員の皆様方には、平素より香美市の教育の充実発展の為に大変ご尽力をいただいていることに対しまして、厚く御礼を申し上げます。さて本年1月には「香美市よってたかって生涯教育フォーラム 2019」を開催致しました。当日は雪の降る大変寒い日でありましたけれども、多くの皆さま方にご協力をいただきまして、また多くの委員の皆様にご参加をいただきました。このフォーラムを通じまして香美市の子どもたちが頑張っていること、また山田高校に「探究科」という新しい科が新設されること、教育の力、教育の大切さ、香美市の教育の今を深くご理解いただけたのではないかと感じております。教育を通じてのまちづくりということが昨今聞こえていると私は感じております。今申し上げましたフォーラムもそうでありますけれども、市内各小学校中学校におけるコミュニティスクールにご協力、参加をいただいている地域の皆様方もそのように感じているのではないかと感じております。行政として今出来ることをしっかりとやっていかなければならないと考えておりますので、皆様方におかれましては本教育会議を通じまして様々なご意見をあげていただきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い致します。以上を申しあげまして、冒頭のあいさつに代えさせていただきます。本日はよろしくお願い致します。

川田総務課長 ありがとうございます。ここで会議に先立ちまして、浜田委員よりご提案がございます。

浜田委員 この4月まで教育委員として勤務されておりました竹平委員、4年間やっただきました。それで今回、本来なら委員と市長との会議なんですけれども、特別に、特に物部の教育の活性化というテーマがありますので、物部地区から出られて4年間がんばってこられましたので、ぜひこの議論の場に加わっていただきたいと思いますが如何でしょうか。

法光院市長 竹平委員には、総合教育に関しましても非常に前向きな発言も沢山いただきました。会議におきましては意見をいただくということも定められておりますので、私といたしましては竹平さんにこの会議に出ていただいてご意見をいただければ大変ありがたいと思っております。皆さん、よろしいでしょうか。それでは竹

平さん、前の方へお願い致します。

川田総務課長 それでは本日の会議を次第に沿って進めさせていただきたいと思います。報告ということで3点ございますが、一括して報告していただき、その後ご質問等があればお受けしたいと思いますのでよろしくお願い致します。それではまず一つ目の香美市教育振興基本計画（後期）について報告をお願い致します。

時久教育長 私の方から報告致します。教育振興基本計画（後期）の冊子と概要版をお配りさせていただきましたが、冊子の方を少しめくっていただいております。香美市教育振興基本計画は、専門委員さんが何回も会議を開いて下さりましてまとめあげたものですが、一番元になるところは市としての方針、そして考え方というところが一番大事なところ。前回の前期の方もそうでしたけれども、後期についても教育大綱と教育振興基本計画とが一緒になったものとして、こういった冊子を作ったところです。1ページめくっていただきまして表紙の裏ですけれども、「まちづくりは人づくり」という考え方で、とにかく教育を充実させて町を活性化させていこうという、この趣旨からこの冊子自体が始まっています。それでその次の右側のページですけれども、ここに先に香美市の教育の全体像というところ、ここにいろんなものを盛り込んで書かせていただきました。大事なことがこの「香美市よってたかって教育」というこの言葉を使いながら、皆で教育を盛り上げるという、そういうことを高めていこうということで、「よってたかって教育」という言葉は沢山使わせていただいています。それでその次に、「香美市の郷土を愛し、未来を拓く教育」という一番大事なところもここにおいて、それから目指す人の姿はずっとこの4点、高知工科大学がある町としてとにかく「主体的でチャレンジ精神がある、様々なつながりで学び協働できる、そして学びから新しいものを生み出すという、そういう意欲を持ち行動する、郷土に愛着を持つ」と。ここのところは一番の基のところ、大事にしていくところです。それから前期はどちらかというと学校教育の課題解決、そして学校教育の活性化というところで力を入れてきまして、後期は生涯学習そのものを元気にしていこうということで、その中に学校も保育園も幼稚園も入っていくという、そういう構想です。とにかく「探究」ということで筋を通してやっていこうというのが、大きな後期の力を入れるところです。そのあとは、ずっとこれまで取り組んできたことで変わって来たことと、いろんなデータを書いてありますが、24ページのところから色々グラフなどで示しましたような現状をこれをどう評価して次へどうつなげるかということをお数ページ書かせて

いただいています。そして 30 ページ、このところに「学ぶ!」「つながる!」「未来を拓く!」その考え方を書いて、その次の 32 ページのところに、こういう柱でやっていきますよということをまとめた全体体系図があります。大綱の方からいけばこの基本理念「郷土を愛し、未来を拓く人づくり」。それから次の視点のところ、基本的方向のあたりまでが大綱の大きな役割の部分だと思っています。それを受けて施策の柱。それから 33 ページからずっと続いていく教育で細かくどのようなことをするかということが書いてあります。そういう意味でこれ自体が大綱であって、そして教育振興基本計画の骨子案というようなとらえ方でいけると思っているところです。それでもう一冊、概要版ですが、こちらの方がいろんな人には分かりやすいだろうと思って作ったものです。以上、何度も説明をさせていただきながら、作る過程でもご意見をいただいたりしてやってきたものですから、新たな説明ではございませんけれども、出来てから最初の総合教育会議ということでもありますので、これを元にしてこれから 5 年間進めて行くということを説明させていただいたところです。よろしく願い致します。

川田総務課長      ありがとうございます。そしたら次に新図書館建設の進捗状況について報告をお願い致します。

黍原生涯学習  
振興課長      「新図書館基本設計の概要」の資料に沿ってご説明いたします  
3月の教育委員会定例会で担当より説明があった内容ですので、教育委員の皆様には、再確認のようになりますが、よろしくお願ひします。  
図書館建設事業基本計画で示された、「知の拠点」「交流の場」「発信の場」の三つのコンセプトを具体化した図書館になるよう、基本設計をもとに、この4月より実施設計図書を作成業務をすすめております。  
ページをめくって、検討の経過ですが、みなさまのご存じの通りですので省略いたします。  
整備概要は、ご覧の通りです。  
建築の資材に関してですが、木材は市産材を利用します特に屋根の構造が複雑なため、技術力の高い業者でないと施行できないのではないかと思います。  
総事業費約13億円です  
配置計画は北側に一般開架や事務室などの落ち着いたスペースとして、南側に児童開架やホールなど賑やかなスペースになっております。  
基本設計着手当初はガラス張りの建物のイメージがありましたが、西日による本の劣化を防ぐために、西側と南側はコンクリート壁を主体としています。  
これからは、動画を観ていただきながら、説明をさせていただきます

新図書館の各スペース（概要説明：基本計画段階の動画に合わせたもの）

まず見えてくるのが【風除室】です。

開館時間前に開けて、開館待ちの利用者に利用いただける運用を計画しています。

次に【エントランスホール】ですが、エントランスホールはある程度の広さをとって、作品の展示など、様々な展示ができるように考えています。

【インターネットコーナー】は、利用者がパソコンを利用して自由にネット検索ができるコーナーです。また、拡大読書器を設置します。インターネットコーナー付近には、蔵書検索のできる機械を設置。そのほか、館内では全域でW i - F i 接続が可能です。

こちらは【ブラウジングコーナー】です。新聞雑誌を読めるコーナー（ブラウジングコーナー）を設けます。現在よりも新聞、雑誌の種類を豊富にするように検討しています。

【静寂読書室】は、静かなところで読書がしたい方のためのスペースです。10席程度の広さを計画しています。会話禁止のスペースとなります。

【児童開架コーナー】です。児童図書は23,000冊以上が開架できる規模を計画しています。絵本や紙芝居のほか、10代向けの本に特化したティーンズコーナーを設置するようにします。児童開架コーナーは、書架の高さを低くして、窓からアンパンマン列車などを楽しめるように考えています。

こちらは【お話の部屋】です。お話しの部屋は、親子で読み聞かせができるスペースです。靴を脱いであがれます。

【ホール】です。ホールでは、図書館まつりやライブラリーコンサートなどのイベントの他、読み聞かせ講座などの講座、会議室としての利用、文化活動を発表できる場として利用できるよう計画しています。広さとしては、最大160名が使用できるスペースを計画しています。間仕切により、2室にすることが可能です。

【ボランティア室】。ここは、ボランティア団体の方にご利用いただく部屋です。

ホールの控室としても利用します。

【グループ学習室】は、グループ、複数での学習による利用を想定し、交流や活動のための部屋となります。5・6名規模の会議室のようなイメージで、会議室としての利用も想定しています。1室を間仕切により、2室にする仕様を計画しています。

【一般開架コーナー】です。一般図書は43,000冊以上が開架できる規模を計画しています。読書用の座席は、分散させて設置するようにします。また、館内は特定のスペース以外は会話を可能とし、蓋つきの飲料水も持ち込みいただけます。

【学習・読書室】は、学習のためのスペースです。20席程度の広さを計画しています。読書にもご利用いただけます。会話は禁止となります。

【屋外テラス】は、屋外でも読書が楽しめるように、本や雑誌を読んでもらえるスペースとしています。飲食コーナーと同様に、屋外テラスにも食べ物の持ち込みができます。

【事務スペース】です。ここには、職員の事務・作業スペースのほか、閉架書架と応接室兼救護室を配置します。閉架書架は35,000冊規模の収納を計画しています。

【対面音訳・録音室】。こちらは、本を朗読するサービスの他、本の朗読を録音作業ができる機能を有する部屋として計画しています。

【飲食コーナー】です。自販機などを設置し、軽食を持ち込んで食べられるスペースを設けます。飲食可能なスペースにつきましては、幅広い年代で強い要望がありました。

続いて今後の予定ですが、本年度は、現在進行中の「実施設計」「埋蔵文化財調査」。来月6月6日に「事業認定に伴う事業説明会」。6月議会で「用地の購入」の予算の補正。その後「造成工事」「工事監理」「本体工事の着手」を予定しています。令和3年9月開館予定でしたが、建設工事の工期について、鉄骨資材の発注に時間を要すると考えており、以前の見込みよりも完成が遅れる予定です。

次に課題についてお話をさせていただきます。

まずは、【今後の蔵書計画】ですが、現在、開架閉架ともに本館には約 46,000 冊の蔵書があります。そのほかにもまだ登録されていない寄贈本が約 4,000 冊あり、現在その整理を進めているところです。現在の蔵書の約 46,000 冊の中には、新図書館に配架する資料と、除籍対象とされる資料もあるので、登録だけでなく、除籍を含めた整理を今年度から令和 2 年度末までには行わなければなりません、人員不足で整備が思うように進んでいないのが現状です。

古い本ばかりが新図書館に並ぶことのないように、令和 2 年度までには購入計画をたて、令和 3 年度には発注・納品できるよう準備をしていきます。

【ランニングコスト】についてですが、現在、土日祝日開館もしている状況なので、週 1 日しか休館日がありません。年間の開館日数と職員数を近隣と比較しても香美市は職員不足の状況です。

開館時間を延ばすと、さらに人員不足となります。近隣には民家や商業施設もあまりなく、夜間等の開館をするにあたっては今後さらなる男性職員の配置も必要となるのではないのでしょうか。

【植栽の維持管理】についてです。この人員では、定期的に職員が植栽の維持管理を行う時間をとることは難しいと思います。予算化して伐採等の手入れを業者に委託することになります。

ボランティアをお願いすればいいという声もありますが、ボランティアもあくまで無償で行われる活動なので、当初は人員が確保できたとしても継続的に活動を維持することができるかどうか大きな課題となります。

また「発信の場」エントランスでの展示・ホールでの学習の発表の企画等の業務は司書業務とは違う、図書館業務とは切り離して考えないといけないように感じています。図書館は蔵書などの資料を用いた「発信」は大いにしていきますが、企画展示などに関しては、団体等が主体的に「発信の場」として新図書館を利用していただきたいと考えています。

そして、アンパンマン図書館の老朽化や美術館の収蔵庫、新図書館のできた後の現在の図書館などいろんな施設について、「香美市公共施設個別施設計画」など全体とのバランスをみながら考えないといけないと考えています。

【ボランティア活動の支援】についてですが、ボランティアは決して職員不足

を補うものではなく、その技能を持った人に依頼する必要があるれば、適切な労働の対価が支払われる有償ボランティアも検討しなければならないと考えています。ボランティアと図書館の関係を有益なものにするためには、良好なコミュニケーションの確保に努めるとともに、図書館側の受け入れ体制の整備、担当者の配置が必要であります。ボランティアの養成講座や研修会への参加の機会の確保など諸条件の整備に努め、ボランティアの自発性を尊重しつつあらかじめ活動領域を定め、住民のプライバシーに関わらない領域に限定することが必要とされています。住民等が学習の成果を活用する場としてのボランティア活動の受け入れについては、図書館が主体的に判断することが重要であり、図書館は活動に関する機会や場所の情報を広く収集し、提供する拠点として機能させていくことが求められています。そのうえで、図書館とボランティアとの交流会やボランティアネットワークとの事業共催など図書館との協働も重要です。

私の個人的な考えですが、生涯学習振興課の地域教育班の充実を図り、地域学校協働本部や現在あるボランティア団体やいろんなサークルなどを統括できるようなコーディネーターのような職員を配置できたらいいのではないかと考えています。地域教育班の分掌事務を追加することも必要になってくると思います。

公民館活動については、本年度の公民館の運営審議会も終了し、特に意見もなく現状維持のような活動になっています。地区公民館の活動の中には、目新しい活動が、ありましたが、地区公民館の中には、やはり高齢化の波がおしよせているところもあり、現状維持もままならない地区があるようでした。

旧土佐山田の時代の公民館活動は中央公民館の職員を巻き込んで、もっと元気だったようにも感じますが、現在の活動に落ち着いているというのは、地域の方々が望んで現状になっているのでは、とも感じました。ただ、近所付き合いよりは、同じ趣味などで人々とつながることが、楽しい時代になっているように思いますので、人と人を繋ぐ機会を少しでも増やしていきたいです。

そのため、よってたかって生涯学習フォーラムなどで、いろんなサークルや、文化、スポーツ活動などを紹介したいと考えています。

川田総務課長

ありがとうございます。只今それぞれから報告がありました。この報告に関して何かご質問等ございましたら、ご自由に意見をお願い致します。

宮地委員

ひとつ教えてください。ボランティアに関してですが、この間も会をやったと

言っていましたよね。今そのボランティアの集まり状況、希望者状況、これはどのようになっていますか。

黍原生涯学習

振興課長

今のところは、この間の会で書いてくれた人なども数人いらっしゃいますけれども、特に活動をしている状態ではありません。ただ図書館の方では今までずっとボランティアをして、活動をして下さっている人はいます。その方は今も続いてやって下さっている状態です。それから「新しい図書館が出来てからするよ」とか言って下さる方もいましたので、書いて下さっていたのは7名くらいですかね。そのうち4名くらいが香北の方でして、すぐ活動出来るような状態ではなかったです。

宮地委員

それでも、だんだん建築が進んで情報発信していったら「やってみよう」という希望が増えると思いますよね。

黍原生涯学習

振興課長

はい、最初はたぶん希望者がやって来ると思います。しかしそれを維持していくことが課題ではあります。

浜田委員

図書館の書籍の関係ですけれども、当然古いものは資産から償却をした方がいいと思います。蔵書数が少なくてもやはり不必要なものを置くというのはないです。それと同時に購入というものもなかなか予算が限られているという中、市民その他から寄贈を募るといった計画はありますか。

黍原生涯学習

振興課長

それは考えていなかったです。また検討させてください。

浜田委員

自分たちが今持っている本を処分する時は、外部の図書館に置くより、香美市の図書館に預けたいなどは思いますね。

黍原生涯学習

振興課長

今も市民の方が本を時々窓口には持っては来て下さっていますけれど、大々的にアピールすることはまだあまり考えていなかったもので、少し考えてみます。

浜田委員

いろんなものが入ってくるので、選択するのが職員さんは大変なんですけれども、こういう条件であれば受け取りますとかいう決まりが必要ですね。

川田総務課長

その他のご意見はございませんでしょうか。

法光院市長

図書については、県立大学の方が大変今しんどい思いをして、大学の方ではそ

れなりにちゃんと整理をしてやったところですけど、最終的に焼却というのが衝撃的だったわけで、それが非常に皆に不信をかけているんですね。図書はやはり今言われたように、必ず整理をしなきゃいけない時がきます。でも整理をする時についてきちんと基準を定めておかないと、寄贈いただいたようなものを簡単に処分したというようなことになるとまた非常に残念な結果になるので、その辺りは図書館を作るあたりから少し検討しておいた方がいいと思います。そして何でもかんでも寄贈を受けるとするのはこれも大変なことなので、その基準を作っておけば基準に基づいて検討が出来るということになるので、そのあたりをうまく整理をする必要があるのではないかなと思いますね。

黍原生涯学習

振興課長

除籍に関しては除籍の基準があって、それに応じて除籍しているそうです。ただ受け入れる本についてはまだ決めていないかもしれません。

法光院市長

除籍の基準も今言ったように、大学の場合はやはり大学の中だけで基準があってやったんだけど、その結果があまり良くなかったということです。大学の中では大学の中で利用するってということがあったんだけど、もっと周りの大学とかあるいは必要な人にどうしてそういうお知らせをして本を生かさなかったのかというところが言われているので。基準は皆さん持つんだけどもやっぱり今まで持ってきた基準だけでは足らなかったよねというのが今回の県立大学の反省なので、そのところを我々も学びとっておく必要があると思います。

川田総務課長

基準はいろんな方から学ぶ必要があると思います。その他ご意見、何でも構いませんけれども、大丈夫ですか。そうしましたら報告はこれまでという形にさせていただきますまして、3の議題ということに入っていきたいと思います。構いませんでしょうか。

議題については(1)(2)と二つございますが、まずは一番目の「物部地区の教育活性化について」のテーマに沿って、資料も一部付いていますのでそれを見ながら、意見などご自由に発言していただきたいと思います。よろしく願い致します。

時久教育長

資料の説明というよりは、物部地区の教育活性化をどうして議題にしたのかということについてお話をさせていただきます。物部の子どもたちの数の減少がちょっとこの頃激しくなってきました、3年くらい前ですかね、大栃高校の活用が出来ないかとかいうことなども話に出しながら、物部地区の教育を今後どのようにしていくかという話をしたことがあります。ただその時はまだ子どもたち

もまだ複式にもなっていない時代で、この頃地域の人たちがコミュニティスクールの運営協議会の中で議題というか、意見がコミュニティスクールの運営協議会をするたびに出てくるようになってきています。非常に心配をしています。それは保育園の子どもたちの数がだんだんだんだん減ってくる、それが小学校中学校と本当に少なくなってしまうと、多くなる見込みがないということ等があって、心配の声が高まってきています。それで物部地区では、教育委員会の方針として、学校教育の方で、以前外国語教育に力を入れるとか、ICT教育に力を入れるとか、地域との連携の教育に力を入れるとかいう方向性を、今までも出しながらやってきました。ところがあまり物部の教育の中でそれが目に見えてこのようにやっているというのが目立たないということなどもあって、もうちょっと教育に力を入れて欲しいというようなご意見と、それからそのままでは保育園も小学校も中学校もそれぞれのところで子どもが少ないので、どこかで一緒になってやることが出来ないかというようなご意見等が出てきています。それが3月の運営協議会の時でしたか、そういう話がまとまったように出てきた時があるのですけれど、その時に地域の方々から、「自分たちは地域の代表で来ていてそのところは一緒に考えんといかん、気になるところではあるけれど、保護者の方々の意見が大事だろうから保護者の方でも話をしてみてください」というようなことを言われ、それから委員会の方としても「この状態をなんとか出来ないだろうか」と、そんな感じが続いているところです。小学校は今年から完全複式になりまして、本来なら今在籍の子どもがあと3名位いるはずだったんですけれども、やっぱり転居されたり、それからどうしても別の学校に行きたいという希望などが色々出てきたりして、地域の方がさらに子どもが減るのではないかと心配しているところです。そんなこともあって、物部地区の教育の活性化については何か市として方向性を出してするのか、地域と話し合いながらやっていくのか等、いろいろ方法はあるでしょうけれども、何らかの形で早くこういうふうにしようという結論を出して取り組んでいかないと地域の方々がすごく困惑している状況が出てきたということで、議題として載せさせていただきました。合わせて、片地の小学校の1年生2年生が3人だったり4人だったりとかいうように減ってきていまして、この子どもたちが複式になります。入学生が少ないので、合わせて足し算をした時に16人以下とか10人以下とかいうふうな感じになって、どうしても複式が出てくるような形になります。片地はもうちょっとしたらまた12人台へ戻ってくるところがあるんですけれども、そこもどうにかしたいということで、コミュニティスクールの運営協議会に話も投げかけています。そこで今日は物部地区の教育の活性化を中心にして、他にも片地の方にもそういう課題があるということで話を出發していただけたらと思います。

川田総務課長

今教育長の方から物部地区の現状について説明がございましたけれども、それについてご意見はありませんか。これまで委員としてやられておりました竹平さん何かございますでしょうか。

竹平元委員

テーマ自体が非常に大事であり、また大変心配されるテーマというふうに認識をしております。今教育長から学校の分野についてお話がありましたが、自分ら地域のものとしての考え方としては、やはり学校が今現在存続していることによって地域の活性化も出る、とは言いませんが、成り立っているのではないかと考えております。今後教育の面でそれを活性化と言うのは、我々のみならず市全体が取り組んで考えていく課題であると考えております。地域の者としては今言った現状になりますが、今学校を中心として各地域の方々、それから保護者の方々一緒になって、そういうグループで色々学校に関係する活動しております。これも学校があるからこそ、それが核になって皆さんがそれぞれ寄り集まってやってもらってきておるということですので、ある面これも教育分野の一端ではないかと。いわゆる地域の皆さんが集まって活動しているということは教育分野の一環でもあろうかというふうに思うわけでございまして、それほど学校、あるいは教育ということが物部地域では大事になっておると思います。特に、資料を今見させていただきましたが、これからぎりぎり子どもも減っていく、それから保護者の動向も気になるという中で、これを維持していくということは、先ほども言いましたように学校のみならず地域を巻き込んだ、そして地域をどうやっていくかという包括をする香美市全体のやってほしい課題であると考えております。また後でいろいろと具体的なお話をしたいと思います。現状も大体今の教育長の話の中で出てきた通りだと思います。

川田総務課長

物部の今の現状で日頃から思われていることですね。

宮地委員

ちょっと補足してよろしいでしょうか。資料の2枚目、令和二年度以降における小学校中学校の第一学年に入学する推定児童数の大柘小学校のを見ていただくとですね、来年度からずっと7年度まで4人4人5人4人4人4人と来ているんですけど、実際に今どうなのかということですね、こちらの保育所の別のペーパーなんですけど、そこが一番下の大柘保育園と言いますと、0歳児が0、1歳児が0、あと1人4人4人4人と来ています。ですから推定値と実際の数がこれだけ差がある。そうしますと、来年は5歳児が一人ですから1となります。5年度6年度は0になります。そうしますと、最後には大柘小学校は10年以内にもう学校は消滅してしまう、そういう現実があるわけですね。そうしますと当

然それに引き続いて大栃中学校もそういう影響を受けてくる。当然ある一定の人数で教育を続けていかなければならないんだけど、もはや人数が少なくなりすぎてですね、非常に厳しい状況を子どもたちが迎えるということは、このデータから見ても裏付けられると思います。ですから、今やれる時にしっかり手を打っていかないと、非常に厳しい状況が想定されますし、物部町に子どもがいなくなりますと、その地域そのものが非常に厳しい状況になるという、こういった結果で出ていますので、このへんについてまた色々と議論をしていただけたらなと思っております。

川田総務課長

その他、何かご意見はありませんでしょうか。

時久教育長

あとですね、今どんな教育になっているのかという現状から言いますと、香美市全体がいわゆる知徳体という取り組んでいることのレベルアップはしているので、物部も同じ状態で、色んな学力的なこととか体力的なこととかすごく頑張っています。それで今まで検討してきたコミュニティスクールの運営協議会等でも話を出させていただいた時に、いわゆる特別区、特認校っていう制度を南国市などで白木谷とか2校くらいしているんですけど、そういうような話なども実際出してですね、校区を解くということなども説明はさせてもらったことはあるのです。けれども南国市などでも特認校にするには地域からの要望があって、教育委員会の方で特認校にしたという流れでして、地域が何とかして活性化させるための方法として地域から声が沸き起こるということ、どういうことをしてやっていこうとしているか、やっていきたいかということ地域の声もどんどん出してもらいたいということで話し合いはしているけれどもそのままです。それで教育委員会としては、特認校にするという手続きはすぐ出来るんですけど、特認校にしても子どもが行かなかつたら意味がないので、物部地域の教育が他と違って非常にいいと、その地域へ行って子どもたちが教育を受けたいと、そういう学校とか地域にしないといけないということで、今取り組んでいるのはまずはICT教育の充実ということです。これは子どもの数が少ないので一人に一台タブレットを、もともと3人以上に一台とっていましたが子どもの数が減ったので全員タブレットがいつでも使える状態にあるということになりました。一人一台持って授業中にどんどんタブレットを使いながら学習するっていうのは物部だけです。それからそれで学習は進めていきますけれども、中学校くらいになってくると「起業家教育」という、将来物部で住んで暮らしていてもそこで仕事が出来るといようなこともちょっと視野に入れてやっています。皆がみんなそういうことを求めていくというのではないですけど、ちょっと学校の方で起業家教育の視点を持ってやっていて、「こんな

ことが出来る」ということを子どもたちが学習していると、大人になっての選択肢も色々あるのではないかと考えて、起業家教育にも少し力を入れています。それからそういう機器類を使うとなると外国語がどうしても必要ですので、外国語教育については小中かなりのレベルまで出して下さいということでやっています。子どもの数も少ないので、文部科学省が言っている時間数だけではなくもっと色々出来ると思うので、ちょっと変わったやり方も構わないのでやってくれませんかというような話はしています。それからそういう新しいことだけではなくて物部の地域そのものがとってもいい地域で、人間性であったり働く力であったり生み出してくるもの等が大きいので、地域の方々と関わって一緒に地域の活性化も含めて何か事を起して作っていくということを大事にする教育をして下さいというようなこともしています。今保育園も小学校も中学校もコミュニティスクールで一つになっていますから、それをがんばってやっていくところです。そして、学園都市っていうか一貫校に早くしたいと思っ  
ていまして、場所は離れているけれどストーリーが保小中と、きちっとずっと通  
ってるものにしたいので、一貫校に早くしていきましようということは投げか  
けてあります。物部の方は俳句をよく作ったり、新聞への投稿が非常に多いの  
で、それをする時に「物部学園」という名前を多分使って出していくと思いま  
す。俳句等が通ったりした時には、「物部学園何年生」と出てくるようなことも、  
物部では学校の方が事を起してくれています。そうやって早く7年生8年生9  
年生という呼び方も定着していく位の一貫校にしていこうと。今出来るそう  
いう教育の今、というところではやっていますけれど、これで「じゃあ特認校で  
」と言ってもまだまだです。よっぽどのことが行われていないと駄目だろうな  
というところです。そこで一つの提案ですけれども、物部の運営協議会もそう  
ですが私たちの方も、例えば留学生制度をとっている地域や学校だったり、それ  
から土佐山学舎は高知市が建てた計画で学校を作ったっていうのがあるので、  
そういう地域の活性化を前提にした学校の作り込みっていうのを見に行ったり  
ですね、特認校の奈路とか白木谷とか近場でいったらそういうところになりま  
す。皆がどういう風に発想を変えたらいいかというところは分かりにくいので、  
そういうところを一遍見に行くということをした方がいいんじゃないかと思っ  
ています。それをするために、というか今後考えるのに、総合教育会議がそれ  
ほど頻繁に出来るわけではないので、検討する会議を立ち上げなければならない  
かなというように思っています。それは学校と教育委員会だけではなくて、  
もっと斬新な考えを入れる為に外部の人も入れながら、物部をどうしたらいい  
かというところを本格的に検討して、それも早く検討して実践に移していかな  
いと。子どもが減ってもうどうにもならなくなってからでは遅くなるという危  
機感を感じています。以上です。

川田総務課長

今、先進地といいますか留学生制度とか、そういったところの視察であるとか、それから物部地区の教育については緊急の課題ですので、検討委員会を立ち上げるなどのご提案がございましたけれども、何かそれについてご意見等ございませんでしょうか。

宮地委員

今は教育の部分だけで話をしています。ところが教育だけではなかなかこれはもう困難だということになりますので、まちづくりという視点がどうしても中になければいけないという気がしています。仮に今教育長が言われたそういった検討委員会なるものを作る場合には、教育だけの視点ではなくていわゆる町の活性化、まちづくりをどうしていくのか、その中に教育がどうあるべきかという、そういったもう少し大きな視点から考えていくことが大事だと思います。ですから今、人口もどんどん減少しておりますし色々な課題がありますし、例えば治水の部分も非常に厳しい状況になっています。結局は治水の部分もそう、山の部分もそうですよね、結局きちんとしていないと、川の瀬も我々の方も非常に厳しい影響を受けるものですから。一つ挙げてもそういうことが出てくるわけですし、まち全体としてどういうふうにしていくのかというそういう視点の中で、じゃあ子どもの教育をどうしていったらいいかという、そうしたことを議論にぜひあげていただいて、そして具体的な施策が出てきたら一番いいかなと思っております。

竹平元委員

今宮地委員さんが言ってくれました、その通りだと思います。教育分野だけで今からのことを論じていくには限界があるかと思えます。今言ったように、市のまちづくり計画、これの中へ組み入れた物部地域の教育も含めた地域をどうやっていくかというふうなことへ持っていかなければいけないと思えます。そしてもう一つは今教育長が言われましたような、色々特認校に近いようなことを取り組んでいこうということが発信といいますか、方針が出来たら、それを香美市全体で発信するように、「物部地域の小中の学校についてはこういうふうなことでやることで、今具体的に動いております」というような情報発信も必要であろうかと思えます。このことは地域で、先ほど言いました協働本部の皆さんが活動しておりますが、こういう方々にも刺激にもなって、ある程度意識にもつながっていったら、また学校によって村全体も維持出来ておるとこの意識づけも必要であろうと思えますので、今言いましたようにまちづくりの視点から、そしてその中へ今教育長が言った具体的な教育方針を取り入れて動かしていくということが必要ではないかこのように思います。

法光院市長

なかなか難しい問題で、言われるように児童生徒の増がはかられて解決をしていくということも大きな視点と思うけれども、やっぱり生徒が増えるためには留学もありますが、地域での暮らしが成り立つかどうか、暮らしが出来る環境がどう築かれていくかということが一番大事なところだと思うんですよね。地域で活動する人がいなくなってくる、それは様々な分野で、農業でも林業でもそうですけど荒廃をしていくということです。今先生もお話になられたように川上が廃れば川中川下が影響を受けていくということもあるので、これは本当に大きな問題です。行政としては今までの中では移住くらい可能の仕事を応援しようということで、農や林の応援をずっとやってきたんですね。だから一定柚子の農家さんが増えていったりとか、林業の後継者が育っていったりしているけれども、これがまだつながっていない。観光についても別府峡温泉についてはあれだけ叩かれたけれどもこの4月には起き上がってきたということで応援をやっている。そんな様々な応援の中でも地域のうまい活性化につながってきていない。それがほとんどの災害だったりとか林道だとかいうふうな形のもので、お金は大きく使っているけれども地域の人々の笑顔につながるようなものに行政が上手くつながってきていないというのも、これも事実のところなんですね。どっちかという、バスの対策だとか後追い後追いの対策に行かれています。福祉にしても医療にしても後追い後追いになってきているということで、その前をとってやる事業というのがね、これがないところなので、この前をとってやる場所についてやらないと教育だけで考えてもこれは成り立たないとか難しすぎるということ。そのためには地域がやっぱり考えなきゃならないし、地域も立ち上がっていかなきゃならないということだと思うんですよね。そういう点で地域の声はどうするのか、保護者の声はどうするのか、教育委員会としてどうするのか、それと市としてどうするのか、これが一番大事なところなので、そのあたりで一回立ち上がらんといかん。そういう物を本当に一生懸命、こういう会議がこの総合会議だけで留まるのではなしに、もっと全体の声を吸い上げて出来ることを急いでやろうという形のものをしていくことが大事だと思うんですよね。だから、もうそのことをやっても駄目だとか、あれは駄目だとかいう形じゃなしに、やれることをやろうということをやらないと、時間がないということだと思うんですよね。ですから光ファイバーにしたって、もう大栃だけに留まってしまって、なかなか欲しいところ、移住してきたっていう人もそういうものがないので来れない。「それさえあれば仕事は出来ますよ」というような話も伺っておりますけれども、そういうものも無いので、それらについてもチャレンジをしていきたい。「光があと何人いたらつながるから移住しませんか」みたいな声でね、そういうことの呼びかけがあってもいいんじゃないかと思うし、Society5.0の国が取り組もうとしていることについて、

こういう中山間地域、厳しい状況に慣れたところでも新しい技術で出来るものがいっぱいあるんじゃないかということです。今農業も林業もそういうものを探って新しいものを作ってきているんで、地域全体としてそういうものを活用した社会づくり地域づくりといったものも大いに検討してもいいんじゃないかと、そういう特区になってもいいんじゃないかなと思うところです。例えば3DであるとかAIももちろんそうですけど、色んないいもん、進んだ技術が今出て来ているんで、そういうものも地域につながらないのかどうか。特に工科大学等と一緒に連携して、そういう地域を起こすSociety5.0をどういうふうに考えていくのかというようなことも少し考えて検討してみたらどうかと思いますね。

川田総務課長

自分も企画財政課にいて人口減少対策という形で総合戦略等をやっていますけれど、なかなか物部地域の方の言われましたように移住者もいないという形で、有効な対策がとれていない状況です。先ほどの物部地区のことにについて考えるとなったら、まちづくり委員さんや委員会等で一緒に一つのテーマに絞ってやるというのも一つの手かなというのを少し感じたところです。

宮地委員

今教育長が言われました起業のことですけれども、私は3年位前からずっと言い続けてきているんです。中学生で起業してやったらどうですか。起業するっていってもお金を儲けるということではなくてですね、今物部っこ商店でいろんな商品が出てる、それをインターネットで出して私たちこういう取組をしています、これを販売しています、どうですか。そういう事をさっき市長が言われたように、インターネットを活用すればいくらでも出来ますからやったらどうですか。それから学校の先生の負担があるんでしたらインターネットが得意な人に来てもらって、どんどん子どもたちを支援してもらったら楽に行きますよという話を、3年位前からずっとしてきているんです。何も子どもたちにそういう物品の販売をインターネットでやらせているのではなくて、実はそこには仕掛けがありましてですね。その商品を通す中で、実は物部を紹介したらどうですか。こんなきれいなところ、こんなすばらしいところいっぱいありますよ。そうすると結局全世界に発信する、それを見ていただいた人がその商品だけじゃなくて、こんなところなんだから一回じゃあ子どもを連れて見に行ってみようとか、休みの時にちょっと遊びに行ってみようかっていう、そうやってきたらチャンスやないですか。地域の人にも、ずっと言ってきたんですけどなかなかそれが実現していないのが現状です。それから修学旅行で東京へ行って、銀座のど真ん中で柚子を売ってみたらどうですかと言ったこともあるんです。今までと全然発想を超えて取り組んでいかないと、

先ほどの市長と同じなんですけれども、ありきたりの路線で考えていくんだっ  
たらだんだん小さくなってしまいます。だから思い切った発想で子どもたちにあま  
り負担がかからないような方法でいくことが実は子どもたちにとってもプラス  
になるし、実は物部町にとってもものすごく大きなプラスになるんじゃないで  
すかというふうに言ってきているんです。なかなかこれまで3年間実現はして  
いないんですが、新しい校長先生になってですね、ぜひやってほしいと上村先  
生に言っています。先生はこの話を知ってますから、多分やってくれると思っ  
て私は楽しみにしているんです。身近に今出来ることから始めればいいわけで、  
新しいものを一生懸命開発することはないんです。今あるものをそのままイン  
ターネットに載せて発信をしていくと。それで物品を買ってくれたら儲けです  
よねというふうには私なりにそんな話をしてきているんです。

法光院市長

情報発信をするということはずごく大事なことだと思うんですね。状況がだん  
だん分かってくると、それを見ている人がいろんな可能性がむしろあるんじゃ  
ないかというように見立ててくれる。するといろんな提案をしたり、自ら来て  
やってみようって思ったりする人が出てくるんじゃないかと思うんですね。昨  
年だったですかね、日ノ御子の地域の方々のところの地区の懇談会に入らせて  
いただきまして、地域の方がよく来てくれたと言って市の課長たちを迎えて、  
まずこれを見て下さいって言ってある映像を見せてもらったんですね。その映  
像の中には、私たちの地域はこんな地域なんですってということでドローンを飛  
ばして撮影してある。それが非常にきれいな風景なんですね。普段見たことが  
ないような風景で非常にきれいでした。そのそれぞれのところをドローンで映  
しながら、意外に地域は美良布と近いですね、上から見ると。本当に近くにあ  
る。そういうところで、しかもいろんな自然っていうかお宮なんかも沢山あっ  
たりなんかする。花も非常にきれいに咲いています。地域の真ん中のところに  
花が咲いていて、そして地域の人々の取組等が紹介されていました、その画面で  
ね。大変な水路を管理しているんですけど、その水路の破れた状況なんかも映  
しながら、それで完成してそこを地域の人たちがその完成したところを歩いて  
いたりなんかする風景、そんなのを見ると地域の人がいかに力を合わせてやっ  
ているかってことも分かるし、本当にいい自然の中で暮らしていて、ああいい  
なと思いました。だから子どもたちというところから、そのITを使ってやり  
ましようって言ってやって、それで情報発信が出来るんですよね。そこで例え  
ば私たちの地域にはこんなにいいところもあって、沢山子どもがいないとい  
うか、僕たちはもう何人です、でも僕たちは世界に目を向けてますというよ  
うな情報発信をする。色んなITを駆使してやろうと思っていますというよ  
うな情報をどんどん発信して、沢山まだ来れますよ、柚子も取れますよ、それは日本

一の柚子なんですということをごんごん情報発信する。子どもたちが情報発信したり学習することをITの中でやってもらったりなんかするとですね、それが拡散をしていけば意外に実利があるものになっていく可能性がある。商売をしなくてもいいから自分の伝えたいことを伝えるんだという、今子どもたちに一番必要なことを教育の中でやる。地域を伝えるということをやればいい。中学生の塩の道なんかも素晴らしかったし、そういうのも上手く今の機械を使ってやる、覚悟してでもやる。そういう形の物をやれば、全然都会と離れていようが何しようが、その部分だけしっかり押さえられていくというのがあるんで、そのことは受け止める人によって、応援をしたいという人もいるだろうし、そこで暮らしてみたいと思う人もおるし、僕だったらそこで出来るよということも出てくると思うんです。だからそういう形のものでもっともっと知ってもらう、情報発信をしたらいんだと思うんですね。

宮地委員

皆さん知らないですよ。

法光院市長

知らない。みんな知っていると思ってきているけど意外と知らなくて、来てみてよかったって言われるんです。普通と思っていることが意外に他の人から見たら、いいとか思われたりそういうことなのです。おそらく中学校とか小学校のある風景といえばダム湖は必ず入ってくるし、いいんじゃないかと思いません。それは季節ではっきり秋春夏冬、やっぱり情報発信をし続けるのが一番いいんじゃないかなと思います。

川田総務課長

何か意見がございますか。

浜田委員

情報も非常に大切ですけども、何を売るかということを始めにちゃんと明確にしていないと、同じようなことを全国でやっていますから。そうしたら技術力が高いところがどうしても有利です。馬路を売った時には逆の発想をした。都会にないもの、田舎の。まあそれがいいのかどうか分かりませんが、電話がかかっても丁寧な都会言葉で話すんじゃない、田舎のおばちゃんの話するような感じで、それで結局田舎を売る、柚子を売ると。柚子を売る前に田舎を売るということをやって馬路農協があるわけですから。同じように物部の何を売るかということをやれば、やっぱり地元の人たちが本当に話し合えないと。今の現状は田舎の人は知っているけど、実際どうなっているかを多くのはどれくらい知っているかということ、ほとんどの方が知らないというのが現状ではなかろうかと思えますから、ぜひその辺はどうやってやっていくんだというのが必要です。実際これは関係ないですけど、いざなぎ流になると、毎年やっていたのが

最近ないですけれども全国から人が集まってきます。いろんな文化とか大切なものが物部にはありますから、ぜひまちづくり委員会ではなくて、もっと手前からずっと話し合う。組織を作ったうえで、そのうえで香美市の物部町をどうしていくかということ積み上げていかないとなかなか難しい。それと合わせて物部町の方々にいろんな取り組みをして、高知県内でもいいですけれどもそういう人に来てもらったり、見に行ったりして、やっぱり考え方をちょっと変えてもらう部分も必要だなと思います。

時久教育長

土佐山学舎が教育では非常に有名になってきているというのがあるんですけども、そもそも土佐山と高知市が合併した時に土佐山の課題がいっぱいあって、人口も減ってるし、それをどのようにしようかとたぶん考えた一番おもしろいところが、たぶん高知市の方にあると思うんですよね。教育は教育のところで頑張ってる、すごくいい教育を作っているんですけども、あそこ何ていう組織でしたっけ、NPOの土佐山のなんかあるんですよ、子どもたちがよく商品開発なんかしても、それを販売するのはそこが後は引き受けて販売するみたいなこともあって、そういう組織が前からあるのか作ったのかよく分からないんですけど、結局地域づくりそのものを、例えば高知市がどうしようと思って、活性化の一番大事なところ、核になるのを一体どこに、何にしたのかというのがまずあってですね、教育はこのように作ったらきっとそれに結び付くっていうのがあったと思うんです。この前土佐山学舎がいろんな実践をしてとてもいい取組をしているので、話をした時に市長さんがすごく語っていたんですね。その中で土佐山の教育はなんとかっていう話をされていて、だから地域づくりそのものに教育をしっかりさせて全体を弾ませていこうと多分なったと思うんです。教育は教育で元々作る時に新しい校舎を建てるところから始まって、全部小中合わせて。そしてそこにコミュニティスクールだったり英語教育だったりICT教育だったり、一番大事なところに土佐山学というのを入れたんですね。これ総合的な学習の時間で土佐山のことを色々と勉強をするんですけど、外へ発信するのを学校がずっとやっていますよね、色んなところで。だから学校は学校ですごく今役割を果たしていると思うんですけど、全体構想みたいなところがたぶん教育だけで語っていてもいけない部分があるだろうと。だから市の中でも連携出来る課と一緒にしながら考えていかないといけないかなと思っています。教育で出来ることは多分発想が何かあればですね、ひょっとしたらお金もかかるかもしれないんですけど。今保育園があって中学校があって小学校があれば、連携は出来るんですけどやっぱりこの距離が遠くて、授業時間中に行ったり来たりというのがなかなか難しいってこともあったりしますね。ゆくゆくはこの保育園が令和4年くらいで、今のままいったら子どもが一

人になるのかな。令和3年に5歳4歳で5人。今10人いるけど9人になって5人になって1人になってあと0になるというようなことなので、保育園はあまり少なくなったら小学校へくっつけてくるとかいうことは出来ると思います。年長さんだったらくっつけてきて一緒についてというのが出来るとは思いますが、ただそれよりはもっと人を増やしたいというのはありますね。

川田総務課長

小松委員さんが物部在住だと思いますけど何かご意見とかご感想とかございませんでしょうか。

小松委員

先ほども教育長さんがおっしゃいましたけど、市長さんの考え方次第だと思うんですね。これは小中学校の案件ですけれども島根県の隠岐島にですね、島根県立隠岐島前高校という高校があります。全国から生徒が集まるということで有名な高校です。高校がなくなるというので心配した町長さんが動いたんですね。そういうこともありますので、やっぱり市長さんには難題ではありますけれども知恵を絞ってですね、なんとか地域が活性化するようにお願いしたいと思います。

法光院市長

僕は物部にいたので、それまでの行政が教育の方もやっていることについては分かってるつもりなんですけど、僕は物部の行政というのは本当に一生懸命住民のためにやって来た行政だとは思ってますよね。ただいろんな村で出来ることはやって来た。それで建物にしても何にしても村で出来ることはやって来たので、合併してから村に、物部町にやったものってハードでほとんどないでしょう。それだけやってはきたんですけれども、ただやるべきことはそういうことでやって来たんですけども、戦略的にこれをやって、こういう展開を生んでいこうというのは、なかなか確かに人がやってることなんで難しいんですけど、うまく結び付いてこなかったっていうのも事実だと思うんです、教育の面においても。だからこれまでは本当に誠実に一生懸命やって欲しいということについてはやって来たけれども、じゃあ教育の専門家の人たちの先の先を読んだこととか、あるいは、産業の先の先を読んだことを一緒になってやっていきましょうということによって新しい網をかけて行ったり、そういうことが出来てなかったところが今の状況になってきてるんじゃないかと思うんです。今やらなきゃいけないのは大変で人も少なくなってきたけれども、ここでもう一度知恵を絞り上げる、それで地域の人もそうだけれども外からも人を呼んで新しい技術も使ったらどうだっていうことをやっぱりやらなきゃいけない。それは10年やそこらの先の話じゃなしに、もっと先を考えてやる検討をしなければならないところだと思うんです。そういうことが思い切ってやれるかどうか、

ここにかかっていると思うんで。これは言われたように、実は決して物部だけのことでなくてやがて片地ですよ、佐岡がそうだったでしょう、繁藤はどうだったですか、香北町の大半もどうだったんですかということになっていくと思うんですよ。だからこういう大変な時に、やっぱり全部の知恵を絞り上げるというか、集まって何をしますかという話から始まってやらないと、何も一歩出ないということがあるんで。やっぱりそれは地域の皆さんに危機を訴えて集まっていただかないといかんと思うし、それぞれのところで厳しい意見も聞かなきゃ前へ進まないだろうなと思うね。何かこれをやったらいいことがありますよというのはない。でもこれは可能性があるかもしれないね、という状況だと思うので、そこは重たくてもやっぱり集まって議論をしなきゃならないというように思いますね。教育というところから始まる話ですけど、非常に大事なところだと思うんですよ。次の時代の人が育っていくわけですから。次の時代に次の時代に地域を残していく、地域が豊かになっていくことを考えれば人づくりしかないと思います。

浜田委員

市長の方から物部以外の片地についても話が出ましたが、実際数字が示している通り教育長の話でも複式に入っていると。ただ一方で楠目小学校など何百名とかいうところは放課後児童クラブで香美市で唯一待機児童が出ている状態なので、やっぱりその辺も含めてそういう地区に関しては考えていかなくちゃいけないし、工科大があるところなんで、実際地域の方々はどうしていくかということも教育を通しながら地域を見て、産業を見ていくような感じをしなくちゃいけない。都計の末端にある地域は非常に、どっちかっていうと中心部で寂れていきますので、そういう声援も含めてもっと色んなことを考えていかなきゃいけない。それは物部も同じことです。いろんなことを考えた案の中で具体策を絞り出していかなくちゃいけないことになると思います。まあ、今後とも市長には色々ご迷惑をおかけしますがよろしくお願い致します。

竹平元委員

今、住民力と、ちょっと前からこれは言われていますけれど、物部にしろ片地も状況はやがて似てくるということ考えた場合、住民力を引き出すとかではなしに、今現在どれくらいの住民力があるかということ、今から調べてというか持っておるか。このことによって、市長の方も政策の判断が出来るんじゃないかというように思います。というのは、この住民力というのは言うのは簡単ですけど、なかなかやるのは難しい。一番いい例が皆さんご存じの「塩の道」ですね。これが全国的なメジャーにデビューをしたっていうのは、たった一つのあそこが塩の庄谷相ってところにある屋敷丁石ね、これを数人がおこしたところから始まったんです。これがまた行政の手を借りずに全部自分たち

でやって、住民が先立ってやっていくのへ後から市の行政が乗ったと言うような位、これは住民力というのを非常に発揮した事例であろうかと思えます。ですからこれにならうわけではないですけども、住民力というのは今言われたように学校、教育を核として広報とか出来ないか、あるいは街づくりを絡めて出来ないかというところにはどうしても住民力というのがポイントになってくると思うんです。ですからそのことを調べるには、今ここで色々会議の中で提案をしているメニュー、行政側の物部地域あるいは片地地域のまちづくりのメニュー、あるいは教育に対するメニュー、そういったものを提示して、これにどれぐらい皆さんが関心を寄せて、またこれに意見をくれて、そしてそれがまとまってどういう風に動いていくかということを見てみても面白いんじゃないかと思えます。それによってある程度方向性も見えてくるんじゃないかなというふうにも思えます。市長からもこういう話があったのでちょっと自分なりにそういう風に感じて意見を言わせてもらいますが、もう今そこまで来ているんじゃないかな、逆に言いますと、これぐらいメニューで提案してもさほど反応はないなということになるとですね。これはもうそういうことになるんじゃないかと思えますね。

川田総務課長

なかなか難しい課題ですけど、難しいと言いつつも早急に取り組めるところはすぐにでも動いていかないといけないということだと思いますので、また関連部署なり、動けるところは動いていただくことだと思います。まだ議題というか、テーマももう一つございますし、時間もございますので、最初の物部地区の教育活性化についてはここまでとさせていただきます、次の2番の就学前教育についてをテーマに発言をいただきたいと思えます。就学前教育について本当に自分の考えていらっしゃる内容、特にこれについてというのはございませんので、幅広くご意見を頂けたらと思えます。よろしくお願ひします。

時久教育長

この就学前教育、幅広く課題が色々あってということですけど、まずは今、保育指針とか新しい幼稚園要領、就学前の子どもたちをどのように、教育の視点も入れて、どういうふうに育てて学校教育につなげるかというものです。前は保育は保育するというようなことがあったのですけれども、保育の中にも教育の視点を入れて、保育幼稚園がこれから育てていきたい自分の姿っていうのを国の方が示してしまして、そこを目指して教育の視点を入れてやっていこうということが進んでいます。就学前に携わる先生方はそのこともあるし、時代が小学校中学校と同じようにどんどん動いて行って、子どもたちが自ら考え自ら選択して自ら企画して行動を起こさないといけない、そういう時代にもうすでに突入しています。ですから香美市が4つの育てたい子ども像を置いたよう

に、チャレンジするとか、協働するとか、新しいものを運営していくとかいうようなところを出来るような、小さい子どもであってもそのところの基礎を培っていくということをしなければいけないのです。保育園それぞれ頑張っただけで子どもたちが育っていくようにやっているんですが、もっと研究しないといけない。とにかく研究をして、今の時代に即した保育園とか教育というのはどういうものかということを実際にやってみないと、その土台でもって小学校中学校と発展していくということであるわけですから、やっていることがあまりにも同じ形ですと進んでいるので、その季節に応じた行事を中心にして進めていくというのはいいのですけれど、もっと時代に応じたものに変えていく必要があると思っています。ですから先生方の研修の機会が必要だということなんですけど、なかなか研修の機会も取れてないのが実情です。それでも県が何日研修みたいなことで、保育の方にこれだけは出て下さいということであるので、そこには職員を研修に出していますが、なかなか浸透するところまでいかないところが課題の一つです。それから園長先生方ががんばってやって下さっていますけれども、園長先生方が組織を整えていく時に副園長さんとか主任さんとか、そこを核としながらこれからの保育をどう考えてどうするかということも伝えて、そこから職員に話していく流れになっている園と、そうでないところがあって、あんまり変化がない園もあったりするので、そこを揺さぶりたいというのがあります。そういう状況ですので、保育はとても大事なので議題に出させてもらっています。

浜田委員

香美市に大規模保育園があつて、当然そこには職員がいて働いているわけですが、一つの管理とってはおかしいですけど皆横並びの精神で保育をしていますので、先ほど教育長が言われましたように、今後子どもたちをどうしていったら、どうやって小学校に結び付ける、特に香美市の場合はよってたかって地域が育てる教育なので、保幼から大学まで全部あつてそれを一貫した感じにしていきたいというのが町の一つの教育方針なんですけれども、どうしてもその部分が、皆さん同じ保育士という形で保育をやっていたらなかなか難しいですよ。本来だったら方針を出して、方針を管理評価して、そうやってやっていかないとなかなか下のものには伝わっていかない、だからその為には少なくとも100人規模の子どもを預かっているところについては、2等級か管理職をおいていただきたいというのが個人的な考えです。そうしないと組織だった動きが出来ないだろうし、改革も自分たちでやるのは大変ですから。改革もなかなか進まないと思いますし、そういう時代に突入していつているのではないかなと思っています。

宮地委員

ちょっと別の視点から話をします。先日のことですが香美市への移住者が高知県内でトップだという記事が出ていました。非常に嬉しかったんですけども、これから香美市全体の人口ももっと減っていく、その中で新しくよそから移住して下さいねということで沢山来て下さるのはありがたいなと思っているんですけど、若い方であれば当然子どもさんも小さいという方が沢山おられるんじゃないかと思います。やっぱり保育において就学前教育が一番大事なのはもう皆分かっている話なんですけれども、これまではどちらかというと待機児童をゼロにするっていうのが大きな手段になっているんですけども、それだけではなくて、やはり保育の質、ここをしっかりとやっぱり向上させていく、充実させること、そのことがこれから一番必要なことじゃないかと考えるわけです。これまでの仕事の為に親が子供を預けて、いわゆる子守りをしてもらうという発想から、やはり先ほど教育長が言われたようにきちんと子育てをしていく、教育をしていくっていう、質の高い保育というのを目指していけば必然的に香美市の文化を発展させていきますし、その基礎となるのが保育ですから、そう考えた場合、これまでの行事中心で子どもを育てていく保育から、一人一人の子どもたちを一人一人の個性を尊重しながら伸ばしていく教育、保育へ転換していかなければならないわけですね。そのためには、やはり保育士の先生方の意識をしっかりと変えてもらう、今のニーズに当然沿って保育していく、そういった勉強をしていただかなければならないわけですし、そのためには教育委員会として研修を当然していかなければなりません。先ほど浜田委員が言われたように、大きな組織でございますから組織としてきちんと責任のある体制を組まないといけないわけですね、やはり園長も同じ、皆と一緒にだということになりますと責任の所在がはっきりしないわけですね。ですからそういう組織をきちんと確立する中で、一人一人の保育士の方々の力をつけながら、子どもたちにあたっていくことが必要じゃないかと私は思っています。この保育のことに関してこれまで何度かこの会議で議題にあげていただいていますけれども、少なくともこのなかよし、あけぼの、いわゆる100人前後、100人以上、こういったところはですね、職員数59、61人あるいは31人と結構多いわけですので、そういった人数が多い職場については、先ほど言われたような管理職としての、組織改編といいますか、そういったものをしていただければありがたいなとも思っております。なかなか定数の関係とかいろいろあるとは思いますが、ある程度的人数がいればですね、責任者というのがどうしても必要ですし、2等級で発令していただきますと非常にありがたいと私も前からお話をさせていただいているところでございます。

川田総務課長

これまでもご意見をいただいているということですが、いろんなことを考えな

いといけませんのでなかなか難しい部分もありますけれども、ご意見いただきましたので、またどういったことを出来るのか出来ないのかということも含めて考える必要があるんじゃないかなと思います。ちなみに県下ではそういった体制をやられているところは無いわけですし、県外においても非常に少ない状況で、少ないからどうこうということも無いんですが、色んな問題があるんだと思いますので、またどういった問題があるのか勉強が必要かなと思っております。

宮地委員

香南市は、2 等級を発令していたのですが、最近変えまして、3 等級になりました。

川田総務課長

香南市の方にお伺いしますとですね、もともと管理職にする予定ではなかったというようなことは言われていました。合併前に給料の等級が 6 級になったということで、それをなかなか等級を落とすことが出来なかったということです。6 級は管理職の等級ということでそのままいったということです。今度は職員とも話をして、現給保障をする形で級を管理職から落とすということをお伺いしています。

宮地委員

昨今保育士の確保が非常に厳しい状況が全国的に起こっておりまして、そんなことをいろいろ鑑みて、何かそういった位置づけをきちんとしてあげることが、そういった優秀な人材の確保にもつながってくる可能性もあると思いますので、今から取り組んでいただければと思っております。

法光院市長

確かに 60 人くらいの職員を抱えておる課長さんっていないですね。それだけ大きな職場っていうのは無いです。しかも 200 人ほどの子どもを預かって、保護者とそれに全部対応していかないといけないというところ、確かに大変な状況だろうと思います。今すぐという回答は出来ませんがそのあたり、前段でお話をされたようにこの就学前の関係を考えて、あるべき姿を香美市の中に実現をしていく、保育改革といいますか、やるとそうなればセットでやらなければ出来ないと思います。どんな形のセットにするか、いろいろと議論が分かれるところだと思いますが、それは理念を実現させていこうと思えば、当然それが起動するような形を作らないとなかなか出来ないということで、なかなか大事なお意見だと思います。

川田総務課長

その他ご意見ございませんでしょうか。

竹平元委員

この保育士の関連ですが、やはりこの人数の子どもたち、特に職員ですが、この表にもあるようにこういう状態の中できちんとしたそういった組織としての管理をやっておれるのかどうかというところを、普通外から見てそう思うわけです。この所帯の人を誰がどのように管理をして、やっているかということは、ひいてはこれは子どもたちも多少なりとも影響は受ける。特に先ほどから出ているように、前は保育といたら共稼ぎのお母さんが子どもを預けてという程度でしたが、今は就学前というような枕詞がついた保育園ということで、就学前ということは小学校へ入る前の準備期間の子どもたちの園ですよということになると、ある程度職員の処遇とか管理とかいうのも組織としてしっかりしないといけません。そこのあたり特に子どもファーストと考えた場合に、大事になってくるんじゃないかと思うので、また組織の在り方として出来れば早急に検討していくべき課題であろうというふうに思います。

法光院市長

管理職となりますと相当期待をして配置をするし、それなりにやっていただかなきゃならない訳だけれども、現状の施設長さんにそれだけのものを求めるのはなかなか難しい状況です。事務一つとっても相当カバーをしていかないとなかなか成り立たない状況。それぐらいの管理の状況もあるので。もともと事務をする為に雇用された人でないのでそれを求めるのは難しいところだとは思いますが、確かにそこに管理職を据えると非常に合理的にはなるだろう。だけでもじゃあどうの方がどこに管理職に座るのか。これも実際名前だけ管理職になっても仕事をしていなければ意味のないことなのでそのあたり、それはこういうふうな改革をするんですよというようなことが明確になってきて、それを徹底してやりますと。2年かけて3年かけてがらりと変わりますよというぐらいにやるような決意を込めて、方針が定まった中で検討するとかいうことが必要になってくると思います。保護者の中には保育所を選択するか幼稚園を選択するか随分違った見方、じゃあ幼稚園ではどんなことをやっているのか、じゃあ他の保育所ではどんなことをやっているのか、小学校に上がった後の子どもが前提になってやってきているので、それだけ入った時に、学校の先生の方も大変だけれども子どもも大変なわけですね。そのあたりがうまくつながるようにしていかなければいけないと思うんですね。きょう保育園の中の先生方が、今の自分たちの状況っていうのはどの位置にあって、どんな方向になってしまっているのか、そのあたりももう一度分かっていただかないといけないところがあるんだろうと思うんですね。とてもじゃないけど語学だって今もう進んでいるし、もうやっていますので、その人たちと一緒にじゃあ始めますよ、小学校へ行ったらやれますみたいな話をしてもなかなか難しいところが出てくるので、本当に大意識改革をしていただかないといけないと思っています。

竹平元委員

市長、大改革と銘打ってやるんでしたら思い切って、今言ったような管理職を自前で必ずしも用意するというのではなくて、考え方によったら公募でも構わないと思います。こういう人材を求めていますというようなことで公募を打って、募集するのも一つの手だと思います。今言ったような人材が不足しているんだっただらということです。大勢の職員をどう采配するということは、公募の面から採用していけばクリアできるんじゃないかと思いますので、それも一つの案として検討してください。

法光院市長

今の管理職をそこへ行かせたって、そういうものでもないと思うんですよね。教育と非常に近いところなので、そこへ行政の管理職が入っても、学校の運営が上手くいきましたかみたいに言ってもですね、先生方の気持ちとしたらなかなか馴染めない気持ちになると思うので、そのあたり一番難しいところですよ。大改革が必要なことは、周りの状況を見たら必要な状況になってきています。

宮地委員

今若い保育士さんもおられるわけですが、この人も同じようにならないようにしっかり研修もして、次の香美市を担うようなそういった意識改革をしていって徐々に変えていくということは大事だとは思いますが。そういうことをしていかなければならないですけれども、ただ、今の子供は違う。もっと伸びていく為には、やっぱり急いで改革していく必要があると思うんです。一つの視点で物事を見るのではなく、やっぱり大きな視点でですね、大きな子育てという中の視点で見る。その為にはどういう組織が必要なのか、どういう教育が必要なのか、保育が必要なのかっていうところから導き出していくと、そこには責任体制が必要であろうということになると思いますので、ちょっと時間はかかりますけれどもぜひ検討をお願いしたいと思います。我々も当然考えながらですね、必要な提案をしなければならないと思います。

法光院市長

当然のことですけれども大改革をする、そのことを一番よく理解をしていて現場で先頭に立ってくれる決意のあるような人でないといけません。

時久教育長

それぞれ保育園ではすごく責任は持ってやってくれています。だから責任感もすごく強いし、子どものことは大事にするし、保護者との関係もいいし。このまま続いていってもいろんなことは解決しながら育ちも助けていくんですけど。ただ時代が変わっているんで、だから探究という言葉を真ん中に据えたというのは、全体をいろんなことが起こっても自分で開拓出来る人、それから皆

と一緒にやって作り上げる人を作るというところでやったんですね。保育園もそれぞれの保育園の園長さんを中心に、その保育園のやり方でやっぱり進めていかないといけないのです。小学校も中学校もやらないといけないというレベルはありますけれど、やり方とか中心に何を持ってくるかということは学校に任されて、そのことで特色ある教育は作られていくんですね。保育園は皆に合わせないといけないというのが先あるので、そうじゃなくて、やっぱり自分の園の状況から子どもたちが育つにはどうするかっていうところからもう一度見直したら、保育全部がばらばらに変わっていくはずなんですけれど。同じことを一緒にやっているっていうところから脱却して欲しいなというのはあるので、そういう意味でまた投げかけていきます。子どもが試すのには園庭にもっと花が咲いていて使える木の実があつてというようなことが園の中から沸き起こって、そういうことが条件整理出来ないといけないと思うし、例えば牛乳パックとかいろいろなものが適当に置かれていて、子どもがどんどんそこで何か自分でやっていくっていうことを起こさないといけない。そのところからまた園のそれぞれの特色が違ってくると思うので、ぜひぜひ自分たちも投げかけていきたいと思います。

川田総務課長

時間もだんだん近づいてきましたけれども、他にございませんでしょうか。西さん、せっかくですので何かございませんか。

西委員

私の子どもが保育園に行っている時からずっとそうなんですけど、正規の職員の方がすごく少なくして臨時職の先生の数がすごく多くて、朝送って行った時と帰りの先生が全くもう違う。その日に起こったことも、先生同士の話がちゃんと受け継がれて先生同士の話が上手くいってないと、昼間に起こったことも最後子どもを引き取る時には何が起こったのか分からない状態で連れて帰ってくるみたいなことも多々あつて。一日に先生が何回も入れ替わっていくんですね。あまりにも先生の数が臨時の方とかも多くて、朝だけ預かるだけに来ている先生だったり、放課後の居残りだけに来ている先生だったりとかで。なので欲を言えばもう少し正職の先生が多い方がいいのかなというのは、もうずっと思い続けているところではあります。なかなか厳しいとは思いますが。

川田総務課長

来年度から、会計年度任用職員制度というのが正職以外で始まるんですけども、そういったことも始まりますので、また働き方がちょっと変わってくるかとは思いますが。全体的な定員管理的なものもありますのでその辺も含めて今後の課題にはなっていますけれど、また考えてみたいと思います。ちょうど12時になりましたけれどもどうでしょう。閉会するというところで市長

もよろしいですか。

それではお時間にもなりましたので、本日の総合教育会議を終了したいと思います。貴重なご意見をいただきましたので、今後の参考にしていきたいと思えます。どうもありがとうございました。

会議の経過を記載して相違ないことを証するためここに署名する。

香 美 市 長 \_\_\_\_\_

香美市教育長 \_\_\_\_\_